



昔語質屋
 庫卷之二
 初篇

神
 加
 十
 五
 精

馬琴
 史

特別
 へ13
 982
 2



田邊へ10
號 82
卷 2



昔語質屋庫卷之二

東都

曲亭馬琴



第三

曾我十郎鶴乃小袖



忘れし羊を修りしのを友切丸の言譯をばくふむをあらわき。
抑是の曾我十郎祐成小二世と契り大磯の虎が夫の像見と。持
佛堂の柱に掛彩多々る小鳥らど日向あらし今様小袖八丈絹の
縹織紋の草は帽額の外小模様をあらわし小信うた證據あらご
アとせら規るりの疑ひをりやとてある人千鳥を總せり。十郎ぬの
衣裳といふがうらべられん千鳥をつけ。五郎どのの衣裳といふは蝶を
はくるる。いふのり。あつたれども何のゆゑも小蛇と鶴をつくる。あ
らど。これこそ當初曾我兄弟が。被たれど。あつた。違へ。蛇小足を添。

昔語質屋庫卷之二

門 へ13
號 982
卷 2



とらぬることをやひひゆらん。漢土のしらへ日本にも。假名冊子作るものお
 但見とりのあり。壁の貴族老弱の形容。そのあどくを思ひやり。
 衣裳の風流。社下。籠の色。まじも。ゆるが。如く。小書。あつと。小又。振る。れ
 巾も。ゆき。と。時宗。と。の。童。ま。と。相根。小。を。い。と。た。の。鹿。小。秋。楓。の
 深衣。の。の。夕。ぐ。れ。を。お。く。う。と。の。歌。の。ゆ。合。一。た。る。小。説。作。者。の。風。流
 ぞ。め。あ。つ。ろ。よ。耳。を。信。ど。る。の。の。き。件。の。衣。を。相。玉。の。の。が。実。小。被。た。ら。ん。と
 思。ふ。め。ま。と。か。ま。ぶ。ら。小。筆。を。取。る。その。日。の。日。記。だ。も。記。し。漏。ら。が
 考。う。あ。よ。五。十。年。も。百。年。も。昔。の。人。の。一。代。の。物。語。を。傳。へ。ん。小。衣。裳。小。深。衣
 小。撲。様。ま。ま。と。漏。ら。と。傳。へ。る。よ。う。あ。ら。ん。や。祐。成。の。の。大。磯。の。ひ。小。士。鳥
 の。小。袖。と。思。ひ。ゆ。らん。お。ひ。ひ。の。妹。が。ま。ち。り。が。冬。の。夜。の。川。風。さ。し。ひ。
 千鳥。鳴。く。る。り。と。い。ふ。た。あ。の。う。ろ。を。あ。ら。ん。と。う。ら。も。此。方。の。大。磯。の。里

とうとが浪の音。松く風も冬の夜。小。妹。が。り。ぞ。ゆ。く。風。流。士。の。餘。情。を。筆
 小。ま。ろ。の。の。み。真。よ。曾。我。十。郎。の。が。傷。つ。け。た。る。衣。裳。一。て。大。磯。の。ひ。は。た。る
 ろ。あ。ら。ん。と。思。ふ。小。後。の。生。好。ぶ。が。実。小。樹。の。摸。様。ぞ。衣。を。被。た。ら。ん。と
 思。ひ。ゆ。らん。と。思。ふ。親。よ。樹。を。續。り。ゆ。る。小。真。の。好。事。の。却。疑。ひ。衣。と。摸。様。の
 年。代。似。ひ。ゆ。ら。し。の。挿。篇。の。ま。じ。が。後。小。縫。の。上。ま。る。移。小。縫。と。篇。と
 二。様。あ。れ。ど。も。亦。その。ら。よ。縫。師。が。兼。て。篇。を。さ。入。と。一。く。縫。篇。を。と。ら
 鳴。る。あ。ま。建。久。時。代。よ。の。縫。あ。ら。ん。と。不。審。と。肩。う。ち。聲。ま。て。あ。ら。ん。疑
 び。を。起。と。め。ら。真。実。の。像。見。の。衣。の。鞍。物。よ。あ。る。打。を。う。さ。ゆ。と。そ。と
 小。推。量。ま。ま。又。よ。の。絹。を。八。丈。絹。と。唱。れ。伊。豆。の。薄。よ。あ。ら。ん。の。八。丈。嶋
 十。丈。織。を。絹。と。唱。ら。ん。と。思。ひ。ゆ。らん。八。丈。絹。の。と。き。と。袴。の。小。の。の。の
 あり。この今の眼。り。ゆ。い。ゆ。人。を。え。る。迷。ひ。小。ゆ。り。ゆ。八。丈。絹。と。唱。ら。ん。

將ハ曾我兄弟が仇殺の夜黄瀬川の龜鶴りろとも工藤祐隆が井
 の狩屋小竹りろ。吉備津宮の大藤内市。酌をとる。枕をさす。葉度
 ちらりぞり。臥しりしが。彼胞兄弟が。雙言敵結を解けり。と。嗚ぶ声よ
 發る。覺る。夜討入りぬ。と。叫びつ。あつと。人よ。告ぐる。りのり。ま
 祐威り。か。ま。相馴。と。り。の。い。體。の。禮。文。ゆ。り。て。虚言ゆ。あ。ら
 ねども。好色りの。と。あ。の。違。り。里。兄。ハ。九。ツ。牙。の。僅。小。七。歳。と。は。え。一。ら。ろ
 下。と。父。の。仇。人。を。殺。め。ん。と。く。首。小。弓。小。木。刀。め。て。帳。幼。の。を。拵。び。し。も。
 と。か。り。の。の。み。と。ひ。た。れ。ど。稚。ま。と。ん。ど。小。あ。の。如。し。況。し。人。と。う。ろ。く。
 色。を。好。む。優。小。拵。里。小。拵。び。なら。れ。揚。代。小。さ。し。は。ま。り。て。家。傳。の。禮。
 逆。澤。海。を。質。置。虚。氣。りの。祐。威。あ。ら。ら。ざ。い。を。大。敵。を。解。ゆ。ん。
 世。小。の。曾。我。の。逆。澤。海。の。の。と。い。う。は。禮。の。あ。ら。ら。ど。胸。二。段。白。糸。

ま。く。外。ハ。萌。黄。糸。ま。く。威。を。澤。深。威。の。禮。と。り。白。の。澤。深。の。花。小
 毛。を。吹。色。小。威。り。を。あ。り。さ。る。と。唱。た。も。又。古。老。の。説。小。菱。威。と
 の。の。様。ふ。く。澤。深。威。の。の。と。を。菱。を。割。り。綴。た。る。を。逆。澤。海。と。り。の
 ぞ。め。か。よ。ま。い。又。世。間。小。逆。沢。海。の。め。ら。ら。一。め。ら。れ。と。その。未。歴。ハ。ち。ま
 け。ら。ど。録。優。ま。ど。り。の。の。の。夢。あ。も。は。く。る。理。外。幻。境。あ。れ。が。祐。威
 小。拵。街。が。ひ。と。と。情。慾。の。海。ま。れ。を。さ。く。作。と。あ。ぶ。作。り。ぬ。べ。い。こ。ま
 ら。の。う。人。を。の。り。さ。る。ま。の。ひ。と。昔。の。拵。女。ハ。何。ゆ。ゆ。今。の。拵。女。小。品。の。り。と
 づ。強。心。情。を。り。り。り。偽。を。賣。る。の。と。さ。る。ん。中。ん。ど。あ。れ。ら。も。ゆ。り。て。
 側。室。と。る。の。ゆ。り。と。妻。の。を。殺。す。平。相。國。小。儀。れ。に。は。祇。王。伝。又。義。隆
 判。官。の。妾。靜。平。重。衡。を。懲。り。ま。の。じ。なる。千。壽。あ。ん。と。衆。あ。り。ら。ん

今更よその致を吟どれが坐小決をうろ落と禁
 悲しかりん今更よその致を吟どれが坐小決をうろ落と禁
 消ゆ一紙を末てりし尾花が袖小秋風ぞうろ小哀れも
 消ゆ一紙を末てりし尾花が袖小秋風ぞうろ小哀れも
 わびしむら小実録よあかすも又断わらねば草紙物語あれど
 て撰るる又考るる。ゆりの作を物語り今の作り物語とあは
 今更よその致を吟どれが坐小決をうろ落と禁
 悲しかりん今更よその致を吟どれが坐小決をうろ落と禁
 消ゆ一紙を末てりし尾花が袖小秋風ぞうろ小哀れも
 消ゆ一紙を末てりし尾花が袖小秋風ぞうろ小哀れも
 わびしむら小実録よあかすも又断わらねば草紙物語あれど
 て撰るる又考るる。ゆりの作を物語り今の作り物語とあは

今更よその致を吟どれが坐小決をうろ落と禁
 悲しかりん今更よその致を吟どれが坐小決をうろ落と禁
 消ゆ一紙を末てりし尾花が袖小秋風ぞうろ小哀れも
 消ゆ一紙を末てりし尾花が袖小秋風ぞうろ小哀れも
 わびしむら小実録よあかすも又断わらねば草紙物語あれど
 て撰るる又考るる。ゆりの作を物語り今の作り物語とあは



大碓の帝
大碓の帝
大碓の帝
大碓の帝

大碓の帝
大碓の帝
大碓の帝
大碓の帝

ぬぐく虚実ハ只アスルもの。取捨よあらんり。さふを物領よ。あひ捨
 たる人の動さんびひりの控女を。今の控君小引うきて。仇を討んてく
 空裏ふ杜士が。まを好て花街ふ通つ。志も獨さん。さるむさゆめい。彼祐
 従いけも。ゆめれと。只月前の煙を推。この才の短く。へあのく。本石小あうど。
 仇人の所在あらん。さふを。索ひめられる。控さう。ぶ色を。絶てえ。るべうど。
 これい仇人の威勢ある。控紳も。あつ。眼前よ。より。これが。を。致させん
 みそ。友。その。誘引ふ。小控女。而。拘子。をも。嫌ふ。べう。うど。あつ。小虎ハ
 女流さん。れ。も。人を。さる。の。才。あ。れ。び。つ。と。あ。く。席。も。あ。つ。ある。隨。小。祐。成。を。あ。ひ
 どの。う。と。あ。つ。も。祐。成。は。れ。が。あ。ひ。小。志。を。揚。さ。ん。仇。討。小。と。し。出。る。日。ま。も。身。の
 大。の。を。告。げ。ん。が。今。の。あ。つ。と。あ。ひ。う。た。後。の。恨。も。痛。く。ら。ん。途。よ。う。獲。て。後
 者。と。ゆ。く。と。虎。ハ。像。見。を。か。う。じ。と。又。一。護。小。大。破。の。虎。ハ。相。摸。團。諸。越。

の里ふ。生れ。う。より。乳。名。を。於。鬼。と。唱。へ。後。は。虎。と。改。名。を。こ。し。つ。を。
 縁。故。を。解。ら。れ。ハ。於。鬼。ハ。異。朝。楚。國。の。方。ま。う。て。虎。の。も。又。諸。越。の。里。
 諸。越。り。原。昔。ハ。相。摸。の。名。所。と。て。和。歌。よ。ハ。の。諸。越。を。唐。山。よ。あ。ひ。て。詠。る
 も。ま。う。と。う。れ。ハ。人。誓。家。集。よ。ハ。あ。づ。ま。路。の。り。う。う。の。里。よ。ま。う。た
 つ。ま。ね。を。下。あ。ら。う。の。さ。う。も。と。の。め。ら。ん。ゆ。の。う。と。え。さ。れ。ど。あ。そ。う。ハ。好。む
 の。う。の。虎。と。い。ハ。名。小。附。會。と。乳。名。を。於。鬼。と。し。精。越。の。里。の。う。ま。う。
 とう。う。と。い。の。あ。ら。ん。越。の。物。又。記。り。を。え。ゆ。ら。む。と。て。彼。曾。我。見。才
 ハ。南。北。の。祖。太。大。臣。孫。原。朝。臣。武。智。磨。の。四。田。方。參。後。三。位。心。毒。呂。の
 後。龍。小。竹。と。乙。書。に。う。り。十一。代。の。孫。伊。豆。國。押。領。使。維。職。の。子。耕。野
 九。郎。維。次。の。子。俊。野。四。郎。以。夫。家。次。の。子。後。五。位。下。太。郎。大。夫。祐。家。と。い
 ハ。又。津。見。八。道。寂。蓮。が。子。あり。祐。家。が。子。竹。津。二。郎。祐。近。小。と。い。ハ。

あそ河津太郎祐道祐真伊東九郎祐忠と大系圖より見えゆれを東
 鑑小由とて伊東二郎祐親とてその子河津三郎祐泰伊東九郎祐清
 あり祐親へ道河津の正を祐泰小譲王譲りその子の伊東の
 在小居をうねばり小河津と稱し後より伊東二郎とりよる又
 大系圖より祐真とのつゆりのを戒りたるの祐信を賜り信を真小作
 するも不審めれば祐成時帝より麻呂をよそ十五世相統の末孫
 又二孫祐孫もあつたはるて麻呂をよそ八代の孫遠江権守
 の憲ももホユ及小補とられしホユの二と藤原の藤とて今
 る子孫二藤と号しる憲の子後五位下時理その子維景
 その子維職その子維次以上高上その子俊世に郎大夫は次その子
 武者所祐次その子二藤を賜り尉祐孫その子左衛門尉兼大和号

祐時乳名を大身丸とて祐時の身六郎を御門尉祐長ホニ一説に
 維兼の兄駿河守時信とて一人伊豆國伊東に住すとて伊東と
 号せしこれ伊藤二藤の祖とていれど大系圖より由らぬ時信の二階
 堂の祖とてハ祐成時帝の麻呂をよそ十七世相統の末孫あそ
 あそある又按じると伊東守佐美河津の莊ハ伊豆國那賀郡小
 北條と雖小嶋の田方郡小屬の蛭小嶋とて狩野川を渡して
 三嶋の邊ハ狩野の邊ハ光の居る所を又曾我の莊ハ相模
 國豆柿郡よりあそ嶋を澤へ遠めり今大坂のゆるりも嶋を澤
 と唱ふれど彼西行上人の秋の夕ぐれと詠するの如くあそと
 又中村の餘綾郡小あそと小坂と調句の間ふれ曾我の遠青
 の曾我中村とらるるて唱ふれば今の中村ハ中村小あそ

らんらひ思ひ忘れけし。建久四年六月七日の軍家朝 駿河國上野。録
 兼く還向日あ小曾我太郎。祐信御共朝 下路次上野。職を
 ぬり。刺曾我の在の乃具を免除し。祐成時宗が夢后を吊死
 し。仰りし。それ彼等が勇敢の意あるを感ぜし。あ小曾我
 あり。と東鑑に載し。るをみる。人の世に在る七十稀。うやうや
 と世をわくもの。胞兄弟の如くあらば。羨むべし。る。時宗
 を神とまろく。勝名明神と号するが。神社を相模國上野。又東海
 道ある。吉原と浦原の同厚原といふ。彼兄弟を神とまろく。と
 八幡と号する。又厚原より。久保といふ。泉福寺といふ。か
 南葛修り。は祐成時宗の墓あり。十郎のほ名は。高崇院良雪
 大禪定門五郎の戒名は。志。岳院士山良富大居士と志した。り。

この法名といと後小は多たりのある。や。千鳥の模様のりを
 競あつさんと。あひし。を。同どか。れ長く。は傍り。もあは
 り。り。怪もあらん。ふか。ま。あ。と。と。教。あ。と。あ。り。小。才。乃
 ほどあつと。い。う。への。相摸能。の。鄙。び。り。も。慶。さ。と。え。ぬ。吉。小。袖。水。際
 を。た。つ。辨。舌。よ。要。皆。耳。を。側。た。と。

第四 諸葛孔明が陣大鼓

浩如小道具棚の个段を。滾々と。輾ひ。ぎ。り。の。あり。と。その。形。彼。源
 順が。あ。ろ。ろ。ひ。し。て。井。の。と。り。め。の。り。と。つ。ら。う。と。と。い。か。大。捕。り。も。あ。ら。い。と。
 又温公が石を飛して。救世の才を顕したる。水鏡もあつと。方小は。手
 瑠が。手。と。と。こ。小。獸。を。饒。王。責。成。將。か。命。を。と。ら。う。と。炭。取。と。り。か
 りの小似て。直真思ふ。目鼻分明。と。只。の。廣。く。て。鏡。を

打は耳にたたくて洗は等し。衆皆のまじりてその名をたぐ相がぶらうらまも
 ころ居らうらなるふらりの席上小殿と推せうて西國詠言の語まを
 しく。ころんの質庫へ新衣ののみて異國の名器あらば名まらるべ
 あり。ころんあうらうらんの唐の國のた後漢の諸葛忠武侯孔明小
 秘藏せられて南蛮まをも名を東せ。陣大鼓のゆふも。漢のふ
 ちび奥する。天命限王のれが是非に及ぶ。惜る孔明のふ原
 のまの清のむむむむは十のまを六とをて存る。魏の大將鍾會董
 艾の攻悩るれ姜維が武畧を防くふらうら。魏周が學才も用
 小あら。後帝門客ことと魏小隆まのふの帝第立のちんま。北地王
 劉謙孔明の子諸葛瞻まをらうらうて義小ふらと恥をたうら。の
 或を自殺し。或の陣没し。亦命を惜む小人の國賊は魏の奴とあり

孔明が陣
 大鼓の
 南蠻の
 西遊記の
 戦

く。いとえがうら分野あらんと。ころん大鼓の身ゆあらば撥のせあら
 罰のまらゆとぞ。く此の宝とありて晋まともまを。唐宋の世に傳
 らし。が蒙古胡えの時小至て夷狄の宝とあらうらんと。を羞彼処の
 使杜世忠が船に穴竊したとて。博多の津小ありとまを。それらに彼
 蹴と浮浪の移る裏は破をてらうらうらうら。人うられを伴ふら。こ
 ら。魏の調宝と。る小鏡。孫のけ。又百年まあうら。移ら。西人
 の物ひまを。うらと。光と。せめくもの。ひま。王城の地を備んと
 くる。平安京を。感覽し。ちて吉野の皇居を拜見。且く大和旅寢と
 ても。家傳ま。知の。あ。只吉物との。稱ら。れ。里見主祝女が若黨
 某甲が内侍の女の童を誘引出て。以人肉經紀。畧賣されて。母
 らの身を沈めらる。里見少茶禰の情慾。周公且ゆも。方ら。る。忠義を双の

賢相と称せらる。諸葛武侯の遺物なれども。世は伯樂めらばんば。
 馬骨のみぞ一匹馬の皮張るえて。唱らるるものもあらず。されば中葉用
 居の御小伴れ。日ハ世も安く。冬ハ煖也。夏ハ涼也。雪のやみへも寒か
 らず。しよ。惣言器と目利されども。世の重宝といふより。もてんが。質庫
 の空無居。莊子が所謂散木を。美めども。そのやひ。し。さ。び。く。疋鼓の
 原軍器なれども。北狄の樂よ。めらるる。これを用る。ほど。後中國小
 けり。また。今の。あ。べ。の。樂器と。なりぬ。や。さ。び。く。疋鼓の。殺伐の。声あり。これ
 を樂器と。あ。り。し。よ。と。あ。く。小世の中。移る。と。漢の博士の。吟。死。ぬ。
 されば。さ。も。上。吉。僧。家。は。疋鼓を。鳴。と。と。禁。め。ら。れ。た。る。例。も。あ。れ。ど。
 今。小。至。と。い。は。是。非。を。論。じ。む。も。あ。ら。ず。某。ひ。し。諸。葛。武。侯。小。後。ひ。し。
 ぶ。の。さ。ら。も。些。を。さ。し。の。辨。た。る。各。位。の。り。り。小。あ。り。ひ。ひ。小。彼。劉。玄。徳。之。漢。

楊氏が
 正統辨
 機叶録
 卷四
 正統
 辨

景帝の玄孫あり。中山靖王の後あり。後漢の献帝。既し曹丕小殺
 されあひ。一。漢の祚の絶んとを悲む。衆小推す。これ。己。と。と。は。ど。
 天子の位小即め。ひ。在。位。僅。く。三。年。あり。白。帝。城。ゆ。り。崩。と。あ。ひ。し。り。
 蓋し。昭。烈。白。皇。帝。と。す。る。太。子。劉。禪。ゆ。り。位。を。嗣。め。ひ。し。り。こ。ろ。
 賢。り。づ。を。い。ひ。し。り。臣。黃。皓。ホ。を。寵。愛。し。り。遂。に。亡。び。あ。ひ。し。り。
 あり。れ。ど。漢の正統あり。な。ら。ず。な。れ。ば。後。帝。と。も。又。帝。禪。と。も。稱
 せ。べき。を。後。の。字。者。ハ。只。舊。文。あ。ら。ひ。て。改。め。ん。昭。烈。を。先。主。と。し。
 帝。禪。を。後。主。と。す。る。は。唯。綱。目。の。一。書。に。至。り。し。り。の。理。を。辨。て。
 漢の献帝の末。附。り。後。漢。昭。烈。白。皇。帝。章。武。二。年。と。あ。り。し。り。を。是。と。す。
 あり。帝。禪。を。後。主。と。書。し。れ。ば。後。の。謙。を。脱。し。ご。り。た。ら。ち。え。小。至。り
 ず。の。り。り。會。稽。昔。の。楊。維。禎。が。正。統。の。辨。小。昭。烈。を。尊。む。と。と。理。を。

正統
 辨

分明あり。よりて明の學士ホ昭烈帝禪を天子の正統と定めた
 る。西維賈本が三國志演義より多きは改りて蜀の先主後主との字
 一たを夫主と君と次の稱をも周礼の主と公と大夫をりてしり。
 又礼記礼運より公は仕るを臣とひひ。公は仕るを僕とひひとらん。あ
 りて臣と君と對するの稱も。僕と主と對するの稱も。これより
 日本の中葉より主後の稱あり。此より主後との主人僕後の略な
 る。天子とあいて主後と稱とぐの謂なり。ゆれば玄徳は成都より天子の
 位は即ちひてこれを昭烈と謚し。惠陵のみとされ。是を多れば初
 賤納する。帝禪は魏より降する。安樂公は封せられた地を失ふの君に
 成敗は就たる。帝と稱するの義あり。とあり。のめり。と魏は漢
 の賊あり。後せり。彼が封爵を唱る。帝禪を安樂公とせよ。亦

彼曹丕が献帝を推あろして山陽公と封じ。よある。只その謚あり。か
 ら。帝禪と稱するなり。これを後主とのめり。義あり。と稱する。ふと
 らん。晋の陳壽が三國志を撰む。先主後主の名を創たり。
 して常璩が蜀志より。これか。か。陳壽が三國志小
 鍾會の蜀將を會する條。昭烈帝を賤して。益別の先主とある
 して。先主の。先主の名なり。晋の魏を篡ひ。果を亡
 して。三國を并し。なり。天は西の日あり。地は西の皇あり。されば。
 晋は西の何なり。何なり。今千載の後。なり。稱は。今
 のふとや。又漢を改め。蜀とせり。陳壽が。蜀は
 が日抄より。蜀の地の名なり。國の名なり。昭烈帝は
 漢とて稱する。蜀と稱する。孫權とある。魏

賊を討んと盟ひあひしとんも漢とてを稱あひしとれを蜀といふ
 の魏人の所なり彼昭烈皇帝の漢を嗣あひを憎む故に争
 劉氏朝の正統を絶まじりひ漢といふことを忘て蜀といふ名つけしを
 ろる小後の文人墨客の陳壽が當時より阿桓たを曉らむ杜子
 美が詩といふもあらず蜀主と稱はむとて又は伎理を知るの蒙
 者といふべくん明小至まて争やよの理を曉るといふもあらず蜀
 漢と唱りありり前漢後漢小紛はんとてを厭ひ漢末とも季
 漢とも稱せざるよこれを蜀漢と稱するといふく謂あしは五十五歩
 をりて百歩を笑ふの惑ひあり今の君も曹氏魏司馬氏の臣小
 あらど況して日本人のやらどあつたを好魏と晋と阿棟る漢を
 賤して蜀と名けしを先主後主と稱する抑誰がなむや理のあつた

書を讀むのめりるるゆへんをいふ。されば彼綱目小帝禪を後主とあ
 るりて姚燧といふ博士のいふ非をたつた又諸葛孔明の書翰も
 先主と稱するあり。原本の先帝とありを晋の傳りたる先主
 と改めたる杜微が傳り孔明の書を戒る帝禪のこそをさるるが
 更に朝廷の主公今年始十八とありを朝廷と稱するから主公といひん
 道理あり後人の加筆する疑ふべからん。以上顧武が説よ。さて二國志を
 ありたり陳壽の字を義祚といひて巴西安漢といふところの人なり。
 少ありしとれ。熊周を師として漢小仕。觀閣令史といふ職を授
 らる。父の喪小疾あり。婢小ををせうたりり。郷黨の歳をり。
 され小生でらる。累年零落あつたも晋張華その才を愛して。
 孝廉小舉しとる。佐者作郎よりふりればあつた。二國志を撰まき。

正史卷二

〇一〇

大神宮大神樂獅舞圖說

今の獅子舞は漢の諸葛孔明
 ようしてするといふ孔明南蛮の
 孟獲を攻むに先獅子を舞ひ後
 中人をして進退自在物に松葉箱
 をもが懸きてその陣追やうへ
 猛獸をむかひ退けしといふ
 今小園より後大神樂獅子
 舞の俳優あり
 昔物語云むじ寛永大神宮
 御被大神樂とて毎日江中にて俳
 細きうたを鼻高の假面を
 したるの直舞と被て白袴を穿
 脚幣と持て先へまゐるその次小
 十四五歳をうける男童瑤路と



つたれ長絹と被て白袴と
 穿中啓の扇と鈴とを左右小
 のらてのむし三番小麻上下
 着る男箱に持四むし布
 衣の裏末をくる男をの次へ四足
 附より大長持の蓋を取てあ
 のけておたその上へ獅子の臥を
 居中へ大鼓と被て一万度の御被
 てその中へ並て御幣とまひ長持
 又或は女をかくるの皆鳥
 帽子と被て白張袴と穿左右小
 つたれ小笛小鼓打小太鼓打拍子
 さらけおてるといふ瑤路といふ
 する男童神樂と舞ふ拍子
 次第小意をきして威おほる



按ざるふむじ大神樂の俳優のかくそら
 たるの伊勢山田の獅子次の子を模し
 瘦鬼といふといふとされるもの

ありきより陳壽が父の漢の馬謖せまとりの参軍たりし作
 の馬謖罪有るれば諸葛武侯とるり馬謖を誅すその罪を
 糾し又陳壽が父の頭髮を剪て僅小命を助すあつちのん。加之孔明が
 子の諸葛瞻の常は陳壽を軽ぶあつち。あつちとるらるるを恨て
 漢をびりて敗し。漢まげ小書あり。又孔明が傳を作して諸
 葛亮の連年衆を動しあつち。あつちりも功あり。武畧あるりの
 小あつちと織あつち。晋書あつち。又世説新語補あつち。あつちが三國志の妬忌依依
 の筆ふ成るりのあつち。その文をの愛し。理義を時らるるも
 のまわす。縦通俗之國志とも競んりの正統國連備國の別あ
 るをあるべし。正統と昭烈帝のとる僕あつちの帝親あつち。経たるを
 継代魏賊を討めりあつち。國運と司馬氏の魏小代りて天下

と有るり。これを正統とらるる漢の報を慕あつち。あつちのあつちねど
 その奸悪の曹操又子小あつちとる。あつちが天を有不及て世上一由も
 妻りらるる故よこれを國運とらる。又備國と曹操が奸雄ゆ漢室
 を倒し。曹丕に至りて。献帝を追ひ失ひ天子の位を慕とらる。あつち全
 國と有るる故よこれを僭國とらる。殷の夏小代りて立周の殷小
 うりて立漢の秦楚を討滅し。立光武の王莽を誅して立昭
 烈の曹操を討す。西川に帝たる。あつち。正統の天子とらるるは
 一。あつちが魏の漢の賊あり。晋の魏の悪代りる。あつちの論らる
 小あつち。以上金聖歎あつち。大日本に神代より百万載の今に至りて。草余
 の時を。萬國の中文有るるも。いと貴大御國とらる。他あつちの國とらる
 びへ。頼朝御武家の棟梁とらる。六十餘國の總追捕使とらる

在質屋庫卷二

十五

母のづから振ひく。牛角の合戦はとてりしは南朝の公卿との理をがかり
あからるは先帝のちかひに召させあふとて。朝家一統の世よりいふとて
いひしとて。親王あらむを將軍小ありありに。おちて南朝の
武士の忠義も謀畧も京家の武士は務れども威もあつて権もある
まづ衆のありひびくとまらうとて果敢とていふとていふとて
さうたるもあつて中。扇拍子をさしつくとて。和は漢の今けりて明白
小説論どもその論究めて高りれば。吁と感するもの稀めて婦幼を
よくもはらふ。近日の新作ある兼好法師が徒然草を讀むとていふ
いふとて。骨くるとして知られるとて。女の声りと吟くあり。和は漢に對ひ
欠たるあり。柱よりとて。眺るもあれば陣大鼓の拍子ぬきとて。舊の
如へ振び入りぬ。

第五

倭蓀太龍宮入の弓袋の上

扱その次へ。中を少の黒くも掘り。善書はけの。雲の跡の。高く
ええとて。倭蓀を秀乃御朝臣龍宮入の弓袋と一行きをなす。その
とて伴の弓袋の袋の中らを跳して。たをええ。右をええ。善書附は
分明あれど。傳來帖を失ひ。いれ。るは疑ふものもある。抑も主
と頼もは秀乃御朝臣の世小く。さるる弓とて。あはれ。あはれ。その武勇
を高くせん。後人蛇足の説を添ふ。れとて。傍痛と世俗の常々
陰囊も。隨重床の力り。ら。似。れ。る。も。ある。圓居小。刻。は。縁。故。を
あらせんとて。さ。を。頭。と。あ。る。世。俗。の。さ。を。ひ。り。て。や。と。怪
だ。ん。控。へ。と。う。ら。ん。を。首。畧。と。あ。い。わ。ん。の。書。か。り。く。義。平。の。年。間。
倭蓀を秀御。只ひとり。勢田の橋を渡り。ある。長二丈を。り。け。り。ふ

大蛇橋の上は横つりて卧し、秀御らんを物ともぞん彼大蛇の背上
 を踏て。徐中く、踰よられ、大蛇忽ち小男とありて。秀御のまゝ小男
 さくのめ、其年来、貴賤往來の人を試るよ。小辺が如に剛なるもの
 あり。小後、来地を争ふ大敵あり、それを討つてなびて入て、いそ
 秀御一談、小も及ばど。仔細いり、と領議。その男を先小立す。湖水乃
 浪をこえ、水中へ入ると、五十餘所、ゆて一の樓門あり。用は、く内へ入ると
 溜隔の法、金玉の鬘、奇麗、社親言、紫まの盡されど。朱門高閣、帝
 王の百石城、小まゝたす。か、と男、まづ内へ入ると、衣冠を脱ぎ、秀御を
 客位に請む。よ、左右侍衛の官あり、袖を列す。それを数待り、と
 小酒宴、既、又、蘭、ゆて、夜の、く、深、よ、たれ、衆、皆、く、敵、の、寄、来、る、は
 下、あり、ぬ、と、周、章、と、秀、御、の、一、生、涯、身、を、放、さ、せ、り、と、か、る、

格闘性
 百足と馬
 蚊を蜈蚣
 と誤る
 乃、と、支、
 始、原、本
 の、ま、い、
 磨、字、下

五人張小蛇、強り、く、雷、便、し、二、年、竹、の、節、近、る、を、十、五、束、之、伏、は、拵
 と、撥、の中、根、を、苦、本、ま、ま、く、ら、撒、し、る、矢、兵、之、條、を、手、挾、く、今、り、
 と、約、程、よ、比、良、の、高、峯、の、う、さ、を、焼、松、二、三、十、む、と、二、行、小、蛇、く、中、小
 鳴の如く、あるりの。その龍宮城をさうと近づた。まら物の、お、体、を、熟、視、
 小、二、行、は、燃、てる、焼、松、に、彼、が、左、右、の、ま、よ、と、り、は、く、と、え、え、ら、あ、れ、
 百足の馬蚊の化、た、ら、う、と、こ、ろ、は、て、夫、は、ら、う、あ、り、た、れ、が、弓、矢、う、ら、刺、さ
 ず、ち、は、り、眉、間、の、真、中、を、射、し、う、ら、た、よ、その、矢、よ、ご、い、た、れ、ど、由、鐵、を、射
 る、と、く、は、え、く、苦、を、く、く、ま、ぶ、り、り、秀、御、一、の、夫、を、射、損、と、安、物、か、
 め、い、ら、二、の、夫、を、刺、し、あ、り、ト、矢、所、を、射、し、う、ら、た、よ、これ、も、又、身、の、ま、た、懸
 る、と、ま、の、夫、今、の、ま、一、條、ま、う、り、ぬ、ら、ふ、と、と、ひ、り、が、倍、と、業、ト、
 たる、あ、り、と、の、度、射、し、と、る、夫、頭、小、煙、を、吐、さ、く、ま、り、ト、夫、所、を、射、



海
の
大
蛇
の
頭
の
大
蛇
の
頭
の
大
蛇
の
頭

寶屋庫卷二

秀
卿

廿

たりたり。矢又毒を塗る。故や又ある。矢所と二度射する。矢
 や。夫肩間の真中を徹して喉の下まで羽ぬくら通る。またを
 みる。二三千とええ。焼松も忽ち滅る。鳴のこく。よりけり。の
 倒る音大心を響きたり。またて。果て。百足の馬。蚊。龍
 神。それを救ひて。秀乃御をさめ。又款待あり。大。一。振。巻。絹。一。
 禮。一。領。頭。結。る。俵。一。赤。河。の。撞。撞。一。を。装。く。川。邊。の。門。茶。か
 ろ。く。火。船。軍。小。あ。り。の。ま。る。く。を。示。し。秀。御。都。ゆ。り。て。の
 巻。絹。を。載。し。け。り。あ。る。と。は。俵。ハ。中。あ。る。物。を。取。ま。し。ま。し。き
 ざ。と。あ。る。間。財。宝。倉。は。満。ち。衣。裳。身。は。餘。れ。故。よ。そ。の。名。を。俵
 孫。と。い。ひ。ひ。り。の。撞。ハ。梵。切。の。物。あ。れ。と。三。井。寺。に。を。り。ま。る。
 徐の虚実の俗説辨とのり。の。も。租。裁。たり。と。あ。る。が。それ。も。只
 湖水の底に龍王城のあつた。狸。う。た。の。と。辨。じ。た。を。あ。れ。が。も。彼。俗
 説。辨。じ。ら。規。ぶ。り。の。ま。り。れ。が。ま。吾。侪。の。管。書。附。に。龍。宮。入。の。三。字
 を。加。え。し。山。椒。入。の。あ。り。や。と。て。識。者。の。み。小。笑。ま。たり。これ。も。彼。曾
 我。十。郎。の。小。袖。の。裾。を。縫。いた。と。異。う。く。不。破。の。團。の。板。箱。ハ。月。の。漏
 を。賞。状。と。し。賈。客。を。数。符。と。し。新。く。昔。を。え。て。真。を。失。り。白。徒
 の。今。も。亦。あ。れ。の。あ。り。と。さ。ら。ば。ま。づ。龍。宮。城。と。い。ひ。の。あ。り。の。の。り。り
 の。今。も。と。い。ひ。の。孔明。が。陣。大。鼓。の。似。ど。り。と。耳。熟。なる。物。詰。る。れ。い。要。答
 ば。ま。ほ。い。ま。ま。ほ。と。回。答。す。或。の。蟻。燭。の。真。を。増。か。或。の。茶。を。汲。て。さ
 け。講。師。を。管。待。し。を。を。り。り。れ。

昔話質屋庫卷之二終

